

# 令和2年度 学校評価表

品川区立台場小学校

校長 中嶋 英雄

台場小学校校区教育協働委員会

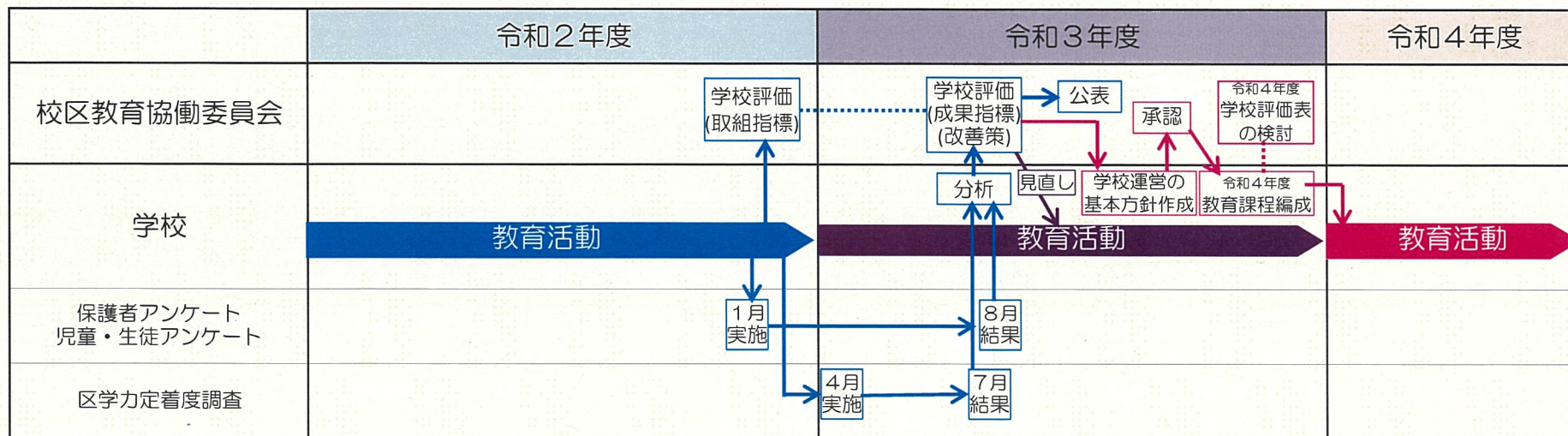
委員長 酒井 朗

校区教育協働委員会は、品川区校区教育協働委員会設置要綱（改正 令和2年3月17日 教育長決定 要綱第7号）に基づき、次に掲げる事項について、学校評価を行っています。

- (1) 学力に関すること。
- (2) 人間性や社会性に関すること。
- (3) 体力・健康に関すること。
- (4) いじめ防止の取組に関すること。
- (5) 特色ある教育活動に関すること。

学校評価を行う際、評価項目ごとに「成果指標」と「取組指標」を設定し、取組状況と取組によって表れた成果について把握しています。学校評価により浮き彫りになった学校の課題を委員会で共有し、改善策を考えました。学校評価の結果を公表するとともに、今年度の取組の見直しや来年度の教育課程の編成に生かしていきます。

学校評価の流れ（※令和2年度の学校評価が令和3年度および令和4年度の教育活動につながる部分のみ表記しています。）



評価項目1 学力に関すること

重点目標		○各教科の学習内容で、基礎基本となる知識や技能の定着を図る。 ○自ら学ぼうと意欲、学習態度を大切にして、子どもたちの学習に取り組む姿勢を全校体制で構築していく。 ○教師の指導力を向上させる。		
評価指標	最上段:成果指標	最上段:成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降:取組指標	2段目以降:取組指標の達成状況の説明		
①	区学力定着度調査では、各問題の習熟基準を各学年70%以上、上回るようにする。	ほぼ、標準スコアの学年が3学年。若干下回った学年が2学年であった。国語科において標準スコアを下回っているが、経年で見ると、上向きの傾向にある。算数科でも、標準スコアの学年が3学年。若干下回った学年が2学年であった。国語科と同様、経年推移は上向きである。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後学習は効果があると思うので実施していきたい。児童の個々の課題はそれぞれ異なるので、内容の統一はしなくてよい。</li> <li>・朝帯学習や昼帯学習で基礎基本の知識・技能の定着を図る。</li> </ul>
	・個に対応した指導を行うために、算数少人数指導や放課後の個別学習を充実させる。特に放課後に関しては、学年毎に「個別学習の時間」の曜日を決めて取り組む。また、隔週の土曜日も活用し、副担任もT、Tとしての指導や教材作成にあたり、繰り返しの学習を行う。	放課後の個別学習の時間をほとんど確保することができなかった。算数は、全体的に苦手としている単元については、帯学習や算数の宿題で復習プリントを出題し、定着を図ることができた。	B	
②	各学年、学習が楽しいと思える児童をクラスの80%以上とする。	意欲的に、学習に取り組めるようICTなどを積極的に活用し、学習を進めている。授業のねらいが示し、見通しをもって学習に取り組めるようにしている。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の実態を把握し、身辺を整えたり挨拶の徹底を図ったりする。</li> <li>・各教室の掲示物を活用する。文房具に関してもスタンダードとして目に見えて分かるものを示す。(消しゴムの色や形、鉛筆の濃さなど)</li> </ul>
	・「話を聞く」「授業の始めと終わりのあいさつ」「鉛筆の持ち方」「鉛筆を削る」等、学習指導基準(台場スタンダード)を徹底する。	「話を聞く」「授業の始めと終わりのあいさつ」はおおむねできているが、「鉛筆の持ち方」、「筆箱周り」(家で鉛筆を削る 鉛筆の数 など)は、まだ課題がある。	B	
	・各教科、領域を通して、問題解決学習(課題把握、予想、自力解決、話し合い、まとめ、習熟・活用)の学習展開を実施し、(台場授業メソッド)書いたり説明したりする思考力や表現力を育てる。	全教員が実施しているとはいえない。児童の実態として、厳しい時もあるが、今後も継続して思考力、表現力は育てていきたい。	B	
③	教師の指導力を向上させる。	校内研究や研修夕会を行い、教員の指導力向上に努めている。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ねらいを提示することや資料提示だけでなく、話し方、板書の仕方など、様々な観点で教員の指導力向上を図る必要がある。</li> <li>・視聴覚機器の使い方や、デジタル教科書などの見せ方・使い方を共有していく必要がある。</li> <li>・校内研究や研修夕会等で教員の指導力向上を図る。</li> <li>・書字や読字に課題のある児童には読み上げや大きく書くなどの支援をし、口頭指示だけでは理解が難しい児童には視覚的に示すなど、個々に応じて対応していく。また、研修で支援の方法を学び、引き出しを多くする。</li> </ul>
	・学習のねらいを児童に提示して、理解させている。	・今年度、コロナの状況の中で、できる限りの指導力を向上させるための取組を行い、授業に生かしてきた。	B	
	・具体物を提示したり、視聴覚機器を利用したりなどの授業の工夫をしている。	校内研修等を通して、ICT機器の活用方法について紹介したり、実践したりする中で、活用できるようにしてきた。	B	

評価項目2 人間性や社会性に関すること

重点目標		○各教科、市民科での授業を中心に、日常生活や学校行事、保幼小交流活動の中で、人権尊重教育を通して自他共に大切に、相互に認め合える態度や能力を育て、支持的風土を構築する。 ○家庭、地域、保育園・幼稚園、連携中学校と連携し、規範意識の醸成と基本的な生活習慣の定着のために、重点化した取組を推進する。		
評価指標	最上段: 成果指標	最上段: 成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降: 取組指標	2段目以降: 取組指標の達成状況の説明		
①	学習規律・生活規律を守ることを、全児童の100%が意識して学校生活を送る。	多くの児童は、学習規律・生活規律について意識しているが、100%とは言えない。一人一人が意識できるよう指導を継続していく。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>一部の児童ではあるが、時間を守ることに課題が見られる。予鈴が鳴っても動かない児童がいる。</li> <li>休み時間に校庭や体育館に走って向かう児童が見られる。</li> <li>課題を視覚化して伝えていく。</li> <li>廊下を走ってしまう児童がいるので、継続して声掛けをしていく必要がある。</li> </ul>
	・週の生活目標に加え、学級ごとに週目標を設定し繰り返し評価しながら、「校帽、あいさつ、まもるっち」の徹底、「正しい廊下歩行」、「時と場に応じた言葉遣い」、「時間を守る」、「係活動や清掃活動」等に取組む児童の育成を図る。	「廊下歩行」「言葉遣い」については、まだ課題がある。指導を継続していく。それ以外の項目についてはおおむねできている。	B	
②	人権にかかわる知識や態度を身に付け、自己を大切にするとともに、友達や、異学年・園児に対して、優しく接している。	異学年・園児に対しては優しく接しているが、友達に対する接し方に課題がある児童がいる。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>知識としては身に付けているはずだが、友達に対してきつい言い方や態度をとってしまう児童がいる。</li> <li>人権学習会や、オリンピックパラリンピック教育等、人権意識を高める活動を継続して行う。</li> </ul>
	・各教科、市民科において、人権教育指導計画を精選しながら人権に関わる知識や価値・態度、技能を身に付けさせる。	オリンピック・パラリンピック教育の障害者スポーツ理解を通し、障害者スポーツにかかわる方から直接指導を受けることで、理解を深めた。	B	
	・異学年の縦割り班による「清掃・給食・遊び」活動を推進したり、のびっこ園台場保育園、幼稚園や近隣の八つ山保育園との交流活動を行ったりして、自己有用感を高め育成する。	今年度、実施できない活動が多かった。コロナのため、縦割り班活動ができなかったが、1年生は縦割り班の6年生に掃除の仕方を教えてもらうことで、交流ができた。6年生を慕う気持ちが育ち、とてもよかった。	B	
③	自分からあいさつをしたり、場に応じたことばで受け答えができる。	「自分から」挨拶出来る子が増えてきた。「場に応じたことば」は個人差がある。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童・教員ともに、自主的なあいさつ、ふさわしい言葉遣いができるようにしていく必要がある。</li> <li>児童の自主的な挨拶を称賛することで、挨拶の日常化につなげる。</li> </ul>
	・教員が率先して、挨拶に取り組む。	教員が率先して挨拶に取り組んでいた。	A	
	・全学年、あいさつ隊の活動を行ったり、委員会活動で児童が、自主的なあいさつ推進を行ったりする。	担当学年の児童がはりきってあいさつ隊に参加していた。	A	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目3 体力・健康に関すること

重点目標		○体育、健康教育全体計画に沿って、体育科における授業の充実を図る。 ○個に応じたアレルギー対応を適切に行い、事故防止を遵守する。 ○安全指導計画に沿って、校内外の生活、交通安全や災害、不審者対応など様々な危機を想定しての安全指導や体験的な訓練を行い、生命を守ろうとする態度や知識、技能を身に付けさせる。		
評価指標	最上段: 成果指標	最上段: 成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降: 取組指標	2段目以降: 取組指標の達成状況の説明		
①	「交通に関する事故件数0件」を目指す。	交通事故件数は0だったが、自転車で転倒しけがをする児童がいた。安全指導を継続していく。	B	・ほとんどの児童がヘルメットを使用しているが、まだ100%ではない。 ・警察などによる交通安全教育や安全指導日の指導をさらに充実させ、交通事故0を目指していく。また、保護者にも声掛けの協力をお願いする。
	・安全指導で、交通安全教育を徹底し、交通ルールを守らせるとともに、ヘルメットの使用率を高める。	安全指導において交通ルールを守ることや、ヘルメットを使用することの重要性を指導した。	B	
②	都の体力調査の各種目の平均を上回る。	新型コロナウイルス感染症による、緊急事態宣言・臨時休業のため今年度は実施せず。		・新型コロナウイルスの影響で活動が制限され、児童の運動時間が十分に確保できない時期があった。 ・新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、児童の体力向上や、教員の指導力向上の取組を継続していく。
	・一校一取組の「マラソン週間(学期1回)」「なわとび週間(学期1回)」「チャレンジジャンプ(月1回)」「体力向上週間(6月)」において、自己目標・学級目標を設定しその達成への取組を継続し、児童のバランスの取れた体力の育成を図る。	コロナの影響もあり、活動が制限されていた。「チャレンジジャンプ」「体力向上週間」は今年度は実施しない。「なわとび週間」では、自己目標・学級目標を設定して運動に取り組み、体力向上に努めている。「マラソン週間」は3学期に実施する。	B	
	・東京都体力向上調査結果を分析、評価し、指導の重点や授業の改善を明らかにし、特に、体づくりの運動や水泳領域等の体育実技研修を開催し指導の充実を図る。	体力調査は今年度は実施しない。体育実技研修は月に1回実施し、教員の指導力向上に努めている。	B	
③	食物アレルギー事故ゼロとする。	令和2年度食物アレルギー事故ゼロ	A	・教員の安全意識を常に高い状態に保つ必要がある。 ・調理員から受け取る際に、何が除去食なのか調理員と担任(副担任)でチェックする。児童に渡す際に、児童と担任(副担任)でチェックするというように二重チェックを行う。
	・児童のアレルギー疾患に関する知識を深める研修および「食物アレルギー対応の手引き」に関する実践的な研修や事故発生時のシミュレーション研修を行う。	給食開始前に全教職員にシミュレーション研修を行った。次年度以降もエビ・パン研修を含めたシミュレーション研修を行うようにする。	A	
	・個に応じたアレルギー対応を適切に行い、事故防止を遵守する。	担任、副担任以外に、副校長も給食配膳時にチェックしていた。担任、調理員、栄養教諭が連携して、食物アレルギーの事故を起こさず安全に給食を提供できている。	A	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目4 いじめの防止の取組に関すること

重点目標		○「いじめ」という人権侵害の防止を徹底し、差異を認め合える人権教育を推進する。 ○いじめの早期発見や早期対応、解決に努める。 ○保護者、家庭と連携を密にするとともに、教育委員会や地域、関係諸機関とも協同して解決にあたる。		
評価指標	最上段:成果指標	最上段:成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降:取組指標	2段目以降:取組指標の達成状況の説明		
①	本校テーマ「自分も大事、友達も大事、認め合い」を大切に言動が100%の児童に浸透している。	「自分も大事、友達も大事、認め合い」の言葉は浸透しているが、行動が伴わない児童がいる。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>言葉遣いに課題がある。悪意がなくても言葉の選び方に課題がある。</li> <li>人権DAYの指導や、人権集会等の取組を継続していく。</li> <li>人権委員で、月1回どのような指導していくか検討していく。</li> </ul>
	・月1回「人権DAY」では、人権感覚を育てる指導や活動を行う。	人権DAYに人権感覚を育てる指導を行っている。	B	
②	生活アンケートでの「学校が楽しい」「友達となかよくしている」と回答する児童100P以上とする。	生活アンケートでの「学校が楽しい」「学校生活に満足している」の結果は84.2%で100%には届かなかったが、多くの児童は肯定的な回答をしている。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>多くの児童が「学校が楽しい」、「友達と仲良くしている」と回答しているが、否定的な回答もあり、配慮していく必要がある。</li> <li>チェックやアンケート結果を分析し、児童の課題解決につなげる。</li> <li>可能であれば、アンケートに児童名や出席番号を記載する。</li> </ul>
	・アンケートなどの結果に迅速に対応し、児童との面談を通して早期発見に努めている。 ・児童の課題や悩み、保護者の相談に真摯に対応し、問題を解決している。	アンケート結果をもとに、必要な児童に対しては個別に対応を行っている。また、生活指導連絡会等で情報共有をしている。家庭との連携を密にし、個々の児童の課題に対応している。	B	
	・教職員が協力して問題解決にあたり、児童理解を深めたりする研修をしている。	生活指導連絡会や特別支援校内委員会において、児童の情報を共有し、児童理解を深めている。	B	
③	いじめの早期発見、未然防止に努め、いじめゼロを目指す。	令和2年度はいじめ事案はゼロ	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活指導連絡会での情報共有は、とても有効であり、引き続き行っていく。また、2学年ずつ報告する仕組みも児童理解に有効であり、継続していく。</li> </ul>
	・校内特別支援教育委員会の月1回の実施する。 ・毎週金曜日放課後、生活指導連絡会を行い、児童の様子の情報交換を行い、共通理解する。	特別支援校内委員会や、生活指導連絡会において、児童の情報交換を行い、共通理解を図っている。	B	
	・月1回「人権DAY」では、人権感覚を育てる指導や活動を行う。	人権DAYに、人権感覚を育てる指導を行っている。	B	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目5 (コロナウイルス感染症対策に関すること)

重点目標		○一人一人の感染予防に関する行動が、自分の命を、家族を、社会を守ることにつながることを理解できるようにする。 ○手洗いや咳エチケット、換気といった基本的な感染症対策に加え、「3つの密」を避けるために身体的距離を確保(ソーシャルディスタンス)など学校内外において徹底できるようにする。		
評価指標	最上段: 成果指標	最上段: 成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降: 取組指標	2段目以降: 取組指標の達成状況の説明		
①	学校生活における感染症予防対策を浸透させる。	学校生活における感染症予防対策が浸透し、児童に手洗いや消毒をする習慣が身に付いた。	A	・手洗い・マスク着用の徹底に課題がある。 ・具体的に、視覚教材を使って児童に理解させていた。今後も継続していく。 ・今社会がどういう状況で、なぜそれらの行動が必要か、日々指導する。
	・手洗いや消毒などコロナウイルス感染症対策の大切さについて、児童が理解し、実践することができるようにする。	コロナウイルス感染症対策を指導した結果、児童が手洗いや消毒をする習慣が身に付いた。	B	
②	学習場面、生活場面における対策を講じる。	学習場面、生活場面における対策を講じ、新型コロナウイルス感染防止に努めた。	A	・児童に対する対策は主事さん方の協力もありよくなっていったと思うが、週番など大人の動きを周知し、的確に対応できるようにする。 ・各部会で話し合われた内容を、全体へ確実に周知する。 ・休み時間の遊ぶ場所の分散化を継続し、密を避ける。
	教室におけるソーシャルディスタンスの確保などをしっかりと行う。	児童同士が間隔をあけて席に座ったり、放課後に教員が机椅子等を消毒したりして、コロナウイルス感染症対策を行った。	B	
	登校時や休み時間の児童の密を避けるように時間や場所を考慮するなどの対策を進める。	休み時間、児童が遊ぶ場所を分散化し、密を避けた。	B	
③				

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成